

学校名	佐賀市立諸富北小学校
1 前年度 評価結果の概要	○研究主任を中心として「学力向上」に全職員で取り組んだ。国語科を中心とした授業づくりについて職員の共通理解を図ったり、外部講師を招いての研修会を実施したりして充実した研究を進めたことが、児童の学習意欲の向上、学力向上へとつながった。今年度も基礎基本の定着を図るとともに、自分の考えの根拠を明らかにし、自信をもって意見を表現できる指導法の工夫に取り組んでいきたい。 ○心の教育では、組織的な取組がいじめや人権への意識の向上につながった。道徳や特別活動の充実をはじめ、ソーシャルスキルトレーニングや構成的グループエンカウンター等の活動を取り入れたコミュニケーション力を高める取り組みを今後も継続していきたい。 ○地域、保護者との連携については、PTA活動の工夫や充実、学校評議委員の支援や助言により、学校と地域や保護者と連携して取り組むことができた。また、「食育」について全校的に取り組ん

2 学校教育目標	自ら学び、心豊かに、たくましく生きる児童の育成 ○子どもが生き生きと学習し、確かな学力を身に付けさせる学校 ○一人一人を大切にし、子どもの輝きをつくる学校 ○規律正しく、家庭・地域から信頼される学校
----------	--

3 本年度の重点目標	①学力向上に向け、国語科での授業研究を軸に他教科へと実践研究を広げ、考え判断する力（活用力）を高めていく。さらに、スキルタイムや家庭学習の工夫により基礎学力を付けていく。 ②すべての教育活動を通して、いじめや差別の防止に努める。 ③一人一人の特性に応じた支援を行い、自立と社会参加の基地を作る特別支援教育の推進を図る。 ④家庭や地域と情報を共有し、PTAと連携して教育活動を強化する。 ⑤基本的な生活習慣や生活規律を重視し、細やかな情報発信を通して家庭への啓発に努める。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1) 共通評価項目					
重点取組			具体的取組	最終評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果
●学力の向上	○全職員による共通理解と実践 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○授業の流れを視覚化するボードを活用して授業を行ったという教師の割合が100%になる。 ○学習に関するアンケートにおいて「学習した内容がわかった、できるようになった」と回答する児童の割合が90%以上になる。	・どの教科でも「授業づくりのステップ123」を踏まえ、児童が「主体的に学ぶ時間」を確保することを意識した授業実践を行う。	B	・学力向上対策評価シートに学習状況調査に対するの考察などを生かして成果指標を設け職員間で共有し、授業づくりに生かすことができた。 ・授業の流れを視覚化するボードを活用して授業を行うことができた。 多様な教科での活用の頻度が上がった。 ・学習に関するアンケートにおいて「学習した内容がわかった、できるようになった」と肯定的な回答する児童の割合が85%以上であり、当初目標の90%以上にはわずかに届かなかった。しかし、県学習状況調査結果においては県平均正答率や到達基準を上回る項目が多く見られ、学習内容の定着を図ることができた。また、1人1台タブレットの活用頻度が全学年にわたって高まった。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳科に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童が90%以上になる。 ○心を育てる教育に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした保護者が90%以上になる。	・一人一人を大切にする人権教室(年間3回)と「いじめ・命を考える日」に人権・いじめ・命に関するアンケート(毎月)を適切に実施する。 ・友達に温かな言葉を書き合う「ハートタイム」(毎月)を実施する。 ・道徳科の授業づくり、エンカウンターに関する校内研修等を年間1回以上実施する。	A	・「学校が楽しい」97%、「正しい言葉遣いができる」97%、「友だちと仲良く」98%の児童が、肯定的な回答をしていた。 ・保護者の学校評価アンケートにおいて、「道徳教育や人権・同和教育など心を育てる指導に取り組んでいる」の設問に、前期95%から後期97%へと肯定的な回答が増えた。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教師が100%となる。 ○いじめのない学校づくりへの取組に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした保護者が80%以上になる。	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルの再検討を行い、全職員による研修会を実施する。 ・毎月の児童アンケート、年間1回以上の保護者アンケートを実施する。 ・児童と担任による個人面談を計画的に年間2回以上実施する。 ・全職員による支援会議をもとに、いじめ・不登校への対応をチームとして組織的に行う。	A	・学校評価アンケートにおいて100%の職員がいじめの早期発見・早期対応に向け子どもの様子の把握や指導に努めたと回答した。保護者の100%のが学校はいじめのない学校にするために思いやりや友だちづくりの指導に取り組んでいると回答している。今後も継続した指導や保護者との連携に努めていきたい。 ・不登校、不登校傾向の児童、保護者に対する有効な支援についてチームで模索しながら進められたことで改善がみられた。今後も保護者や関係機関と連携していく。
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童が90%以上になる。	・児童が「わかった」「できた」を実感できるように授業づくりに向けて校内研修等の充実を図る。 ・「良さを見つけカード」や「良い行動の共有・称賛」などに取り組み、児童の自尊感情(自己肯定感情)を高める。 ・自分の将来の夢や希望について考える授業を計画的、積極的に行う。 ・学級活動や各種体験活動において、自分の成長を児童自身が自覚できるように、活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。	B	・「学校に来ることは楽しいですか。」の質問に、97%の児童が「楽しい」と答えている。また、「喧嘩や意地悪をしないで友達と仲良くできている。」と答えた児童が98%に達していた。この結果は、年間を通じて、毎月学級で良さを見つけカードの取り組みを行ったり、担任の先生が、児童の小さな変化を見逃さず、細やかに対応したり、問題が生じたときは、学年の壁を越えて、先生方がチームで対応したりしている成果だと感じた。 ・「将来の夢や希望、また、その実現に向けて努力している」と回答した6年生が前年度の70%から87%に増加した。この結果は、特別活動の時間を利用して、様々な取り組みを行ってきたことや、キャリアパスポートを基に、自分や友達の良さを見つめ将来像を思ったり取り組みを行ってきた成果だと考える。今後も指導を継続したい。
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○食育や健康教育への取組に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした保護者が90%以上になる。 ○ゲームやテレビ、インターネットなど、家庭で決めた時間を守れていることに関するアンケートにおいて肯定的な回答をした保護者が75%以上になる。	・学級活動において、栄養教諭による食育授業を実施し、「早寝、早起き、朝ごはん」の意識を高め、定期的に実践を振り返り、生活時間と食事のとり方の改善を行う。 ・給食において適正量の配膳を行い、残菜を減らす意識を高め、習慣付けを行う。 ・毎月1日の「ノーテレビデー・ノーゲーム・ノースマホデー」を定着させ、自主的、計画的に規則正しい生活を送る実践力を高める。	A	・食育や健康教育への取り組みに関するアンケートにおいて肯定的な回答をした保護者が99%だった。健康委員会による、残菜ゼロの取り組みにより、給食の残菜が少なくなっている。毎月の栄養教諭からのスライドや各クラスで実施した食育の授業の効果だと思われる。 ・ゲームやテレビ、インターネットなど家庭で決めた時間を守れていることに関するアンケートにおいて肯定的な回答をした保護者が75%だった。昨年度と数値の大きな変化がなかったため、各学年の呼びかけ等を強化して、さらなる意識付けを行ってきたい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週の定時退勤日の確実な実施に努める。 ・退勤時刻の上限を設定し、退勤時刻までの時間を個人で勘案して効率的に活用する「タイムマネジメント」の意識化を図る。 ・各自の業務改善に対する意識や実行力を高めるための研修会を年間に3回以上実施する。 ・職員会議を含む各種会議等の内容(議題)精選と協議項目の精選を図るとともに、ペーパーレス化を進め、職員の負担軽減と会議の効率化を図る。	B	・勤務時間(退勤時刻)を意識して業務を遂行する職員が増えた。職場全体のタイムマネジメント意識は高まり、時間的な改善ができた。また、校時表を見直して下校時刻を繰り上げたことで在校時の業務時間を確保し、時間的・心理的余裕が生まれてきた。しかし、児童及び保護者対応や学校行事の準備等のために、どうしても在校時時間が増えるを得ない場合があり、また職員間の個人差がみられたことは今後の課題である。 ・12月～2月までの時間外在校等時間の月平均が31.2時間、3月を除く年平均が36.8時間であった。昨年度より2.5時間程度増加傾向にあり、依然として個人差もみられている。「今すべきこと」を把握し、業務の「優先順位づけ」や「段取り」を工夫していくとともに、校務分掌の適正配分や複数担当を進め、業務の効率化や軽減を図っていきたい。 ・学校安全衛生委員会で検討したり、職員会議等で毎月の業務記録集計表を提示したりして改善への意識化を図った。また、職員会議等の時間延長を極力なくし、タイムを使って終了時刻を意識した運営を行ったり、協議に必要な資料をデータ化して効率化を図ったことにより時間内に議事を消化することができてきた。今後も議案の精選と集中的に協議すべき項目を明確にして運営していきたい。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目					
重点取組			具体的取組	最終評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果
○地域・保護者との連携	○PTAとの連携による行事や教育活動の円滑な実施 ○地域人材を活用し、地域の特色を生かした教育活動や体験的活動の推進	○保護者参加型の教育講演会への参加者が60%以上になる。 ○地域人材、施設、文化財等を活用した体験活動への取組に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした保護者が90%以上になる。	・学級懇談やPTA活動の教育講演会などの機会に、スマートフォン等の使用状況や弊害、また、学力・学習の現状について教師と保護者、保護者同士の情報交換の機会や座談会を行い、学力向上、生活習慣の向上への機運を高める。 ・教育課程の中に人材活用や体験学習を位置づけ、総合的な学習の時間や各教科の時間において地域人材、施設、文化財を計画的に活用する。	A	・11月のフリー参観デーでは久しぶりの体育館ステージでの発表もでき、児童の学習面や生活面について保護者にも参観してもらうことができた。また、PTA主催「カフェ」を行い、その場にスクールカウンセラーの先生にも入っていただき、保護者の悩相談ができるような場を設けた。 ・各クラスで学年に応じた情報モラル教室や情報モラルについての学習を進め意識を高めた。家庭でも実践できるように、今後継続して担任やPTAからの情報提供をしていく。また、諸富中や諸富小と合同研修会で生徒指導や生活習慣の向上にむけて情報交換をして連携を進めた。 ・地域人材や施設、文化財を計画的に活用した学習を実施できた。
○特別支援教育の充実	○交流学級の指示的風土作り ○地域や保護者への啓発 ○UD教育の充実	○特別支援教育に関するアンケートにおいて交流学級、校内における支持的風土づくりが進んだと回答をした教職員が90%以上になる。 ○特別支援学級の児童の学習の様子を保護者や地域の方が参観したり、参加したりする活動を毎学期に1回以上実施する。	・発達障害児の理解、自立活動に関する内容、UD教育に関して研修会を実施し、校内環境のUD化を推進を図り、特別支援教育の充実につなげていく。 ・特別支援教育に関わる支援会議等を充実させ、個別の支援計画・指導計画の整備を進める。 ・障害者理解の人権集会を行い、特別支援教育に対する理解を求める。 ・必要に応じて巡回相談を依頼し、ケース会議を開く。	A	・特別支援教育に関するアンケートにおいて交流学級、校内における指示的風土づくりが進んだと回答をした職員は100%だった。 ・教育のUD化を意識しながら環境整備や指導に努めた職員は100%だった。 ・特別支援学級の児童の学習の様子を保護者や地域の方が参観したり、参加したりする活動を学期に1回以上実施できた。保護者面談も随時実施した。 ・ケース会議を随時実施したり特別支援程度学校職員による巡回相談を実施したりした。通常学級を含め、配慮を要する児童への支援策を全職員で考えたり外部講師の指導を受けたりした。

5 総合評価・次年度への展望	●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育 ・本校の大きな課題である学力向上について研究主任及び学力向上Coを中心として全職員で取り組んだ。国語科中心から他教科へ広げた「授業づくり」について職員の共通理解を図ったり、外部講師を招いて研修会を実施したりして昨年度の課題解決に向けて充実した研究を進めることができ、児童の学習意欲の向上、学力向上へとつながった。しかし、自分の考えを表現(説明)することに消極的であったり、説明的文章の読解や基礎的内容の活用には個人差が見られたりしている。 ・今年度も基礎基本の定着を図るとともに、自分の考えの根拠を明らかにしてまとめたり、自信をもって意見を表現したりできる指導法の工夫に取り組んでいきたい。 ・心の教育では、「いじめ問題」に係る研修会や特別支援教育理解についての全校人権教室を実施し、各担当者の提案をもとに組織的に取り組んだことがいじめや人権への意識の向上につながった。いじめについては、相手の気持ちや立場を考えない言葉の使い方や行動に起因した事案が多く見られた。自分の気持ちを言葉で正しく伝える力や相手の意図を正しく読み取る力をつけて良好な人間関係を構築させるために、道徳や特別活動の充実をはじめ、ソーシャルスキルトレーニングや構成的グループエンカウンター等の活動を取り入れた相互のコミュニケーション力を高める取り組みを今後も継続していきたい。 ・地域、保護者との連携については、PTA活動の工夫や充実、学校評議委員の支援や助言により、学校と地域や保護者と連携して、子どもの安全・安心を守ることに取り組むことができた。また、「食育」について全校的に取り組んだことで給食の残菜が大幅に減少した。学校評価アンケートではほとんどの項目で中間評価を上回ることができ、特に「いじめのない学校づくり」については100%の評価をいただいた。しかし、保護者アンケートの回収率が75%程度と低い状況がみられたこと
----------------	---